

奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

統計に関わりのあった明治期の警察官僚 佐和正（つづき）

ポリスミュージアムで佐和正に関する展示物のあるコーナーを発見

1 はじめに

統計図書館コラム特別編【No. S02】の執筆に際し、ポリスミュージアムのウェブサイトを開覧したところ、川路利良大警視の軌跡のコーナーがあるとされ、そうであれば、関連して佐和正少警視の功績に関する情報も得られる可能性もあると考え、見学しようとしたところ、臨時休館が開館かがウェブサイトでは判然とせず自粛。バーチャル見学のサイトもありましたが、川路大警視のコーナーは対象になっていませんでした。その後、開館しているかの確認もおろそかに。前掲のコラム公開後、ポリスミュージアムに行くことを失念していたというか、失念していたことを失念していました。2022年6月に、ひょんなことから失念していたことを思い出し、休暇を取り、東京都中央区京橋にあるポリスミュージアムに行ってきました。

【参考】ポリスミュージアムのフロアガイド

6階	イベントホール
5階	時代とともに 警察の歩み (警視庁の創設から、社会の情勢とともに変化してきた警察の歩みを紹介。川路大警視の軌跡、明治から平成の事件史などのコーナーがある。)
4階	首都をまもる 警視庁の今とこれから
3階	事件・事故を解決する力
2階	人と街をともにまもる(役立つ防犯情報を提供)
1階	ピーボくんホール

【注1】ポリスミュージアムのパンフレットを基に作成。

【注2】ポリスミュージアム「警察博物館」バーチャル見学のサイトにより、建物の外観、1階～3階の一部の360°パノラマ画像を開覧することができます。

https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/about_mpd/vr_tour/pano.html

2 ポリスミュージアム見学結果

まず、検温、入館手続きを済ませ、エレベーターで川路大警視のコーナーのあるフロアに。そこに展示されているパネルから次のことが分かりました。

【展示パネルから分かったこと】

- 川路大警視は、明治政府の命により、各国の警察制度研究のため、明治5年（1872年）から約1年間、欧州を視察。帰国後直ちに提出された警察制度改革の建議書が契機となり、明治7年に東京警視庁が創設されたこと。（注）東京警視庁は明治10年に内務省警視局に吸収され東京警視本署に。
- その後、西南戦争を経験し、国内治安の重要性を痛感した明治政府は、明治12年（1879年）2月、川路大警視らを再びヨーロッパに派遣、途中、川路大警視は病の為、帰国。随行の佐和少警視らは視察を続け、1年6ヶ月の滞在。オーストリア、ドイツ、フランスの警察業務全般にわたる情報収集を行い、その一環でこれらの国の統計年鑑の収集を行ったこと。明治14年1月、佐和少警視らの欧州視察結果報告（建議書）により、首都東京に独立の警視庁が再設置されることに。

一口メモ

このことを紹介するパネルには佐和正の写真も載っています。また、佐和正を紹介したウイーンの新聞や本人の自筆履歴書も展示されています。

3 雑感

佐和少警視は、統計図書館コラム特別編【No. S02】で紹介したとおり、明治9年に政表掛会議に警視庁から参加し、日本政表（総合統計書）における警察関係の統計の充実について議論した人物です。日本政表は、後の日本統計年鑑の源流をなすものです。今回の調べもので、佐和少警視が政表掛会議に出席してから三年余り経過後、欧州三か国の警察業務全般にわたる情報収集の一環でこれらの国の統計年鑑の収集を行ったことが分かりました。佐和少警視におかれましては、統計の重要性を認識していたことをうかがい知ることができるように思いました。

【あとがき】

今回の調べもので、博物館の見学により新たな発見ができる可能性もあることを実感しました。

ちなみに、福沢諭吉はその著書「西洋事情 初編 卷之一」において「博物館は世界中の物産、古物、珍物を集めて人に示し、見聞を博くする為に設るものなり。」と紹介しています。

【参考情報】

ポリスミュージアムの川路大警視のコーナーのあるフロアのパネルには、福沢諭吉の名前が登場します。興味のある方は、ポリスミュージアムの見学をお勧めします。

また、今回、警視庁の歴史にも関心を持ち、参考文献を探索したところ「警視庁百年の歩み」に出会い、大変、参考になりました。

※「警視庁百年の歩み」は、国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館/図書館・個人送信限定）で閲覧可能です。

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9634387>